スマートライフ2023年大会原稿執筆手引き\*

神戸　学1), 神戸　文子1)，神戸　太郎2)

1) 港島大学理工学部，2) 港島大学文学部

**概要:** 日本語でも英語で結構です。この手引きには原稿執筆および提出に関する注意が記載されています。論文形式の原稿は1ページ以上でお願いします。なお、論文形式の原稿作成が困難な場合は、論文題目、著者名、所属、および概要のみでも構いません。また、学会誌への同時投稿を希望される場合は、「モバイル学会誌」Webページ（http://s-smartlife.jp/?page\_id=389）の記載にしたがって下さい。同時投稿の場合も，PDFファイルのみ受け付けます．

**Keywords:** keyword1, keyword2, keyword3, keyword4 and keyword5　（※5個まで、基本は小文字）

**キーワード:** キーワード1, キーワード2, キーワード3, キーワード4, キーワード5（※5個まで）

1. はじめに

PDFファイルで作成していただいた原稿を、大会事務局に提出していただきます。使用言語は日本語または英語です。

2. 原稿の体裁

原稿は、2.1以降の体裁に従って作成し、提出して下さい。原稿ファイルサイズは、提出時に問題が生じなければ、制限しません。なお提出された原稿はページ番号を付与する以外は手を加えません。体裁誤りや文字の変換ミス等が無いようご注意ください。

2.1 ページ余白設定

A4用紙の余白は上下25㎜、左右20㎜とします。

2.2 タイトル部

タイトル部については下記の項目の順に1段組みで記載して下さい。

・和文論題(ゴシック, 18ポイント(pt), 中央揃)

・和文著者氏名(P明朝など, 12pt)

・和文所属(P明朝など, 10pt)

・概要(数行程度, 9pt, 左揃)

・Keywords (up to five, 9pt, 左揃)

・キーワード(5個まで, 9pt, 左揃)

連名者がいる場合、発表者には和文氏名の左側に○を付けて下さい。なお、既発表の場合は、1ページ目の左段下脚注に既発表であることを記載するとともに、参考文献にも文献名等を記載して下さい。

2.3 本文

本文は2段組みで作成し、文字フォントはP明朝、文字サイズは9pt、行間は15ptを原則としますが、段幅を越えた図表や2段通しの図表の組み込みも可とします。章の番号は10pt、 Arial、タイトルは10pt、 ゴジック体、センタリングとします。英数字にはピッチ可変( proportional font ) の文字フォントをお勧めます。

\*本研究は○×にて発表したものである。（既発表の場合は必ず記載し､参考文献にも記載して下さい。未発表の場合はこのテキストボックスを削除して下さい）

ポスター発表に限り、論文形式の原稿作成が困難な場合には、概要のみの原稿でも結構です。ただし、「目的」「方法」「結果」の項目に分け、全体で800～1000字程度とします。

2.4 図表の記入

図表にはタイトル（明朝、 9pt、センタリング）を付け、また図表の番号を、図1、図2、…、表1、 表2、…、あるいはFig. 1、Fig. 2、…、Table 1、Table 2, … のように通し番号を付けて下さい。

2.5 謝辞･参考文献など

本文に続いて、謝辞、参考文献等を配置して下さい（謝辞については省略可能です）。

(1) 引用箇所の記載

本文中での参考文献の引用は、引用箇所に[1]、[2]、[4-6]などのように付けて下さい。

(2) 文献の記載

参考文献は以下の体裁で本文の末尾にまとめて下さい。

・雑誌の場合[1]

著者名: 題目, 雑誌名(略記にて可), 巻, 号, 頁, (発行西暦年)

・書籍の場合[2]

著者(または編者)名: 書名(編者), 発行所, 頁, (発行西暦年)

なお、著者(または編者)名の後はコロン「:」、題目そのほかの区切りはカンマ「,」とし、発行西暦年は小括弧「( )」で囲んで下さい。

著者（または編者）名は、和文の場合[4]、姓名を列記し、カンマ「,」で区切って下さい。著者が多い場合には、代表的な著者名を記載し、その他の著者名を「他」で省略することができます。英文の場合[5]には、「名のイニシャル. 姓」を列記し、カンマ「,」や「and」等で区切って下さい。著者が多い場合には、和文の場合と同様に「et al.」で省略することができます。

謝辞

謝辞を記載される場合は参考文献の前に記載して下さい。

参考文献

1. 著者: 題目, 雑誌名, Vol. X, No. X, pp.1-10 (2001).
2. 著者: 題目, 編集者, 書籍名, 巻, pp.1-10, 出版社(2002).
3. 著者: 書籍名, pp. 1-10, 出版社 (2003).
4. 著者1, 著者2：題目、シンポジウム「モバイル’XX」, pp. 1-10 (2007)
5. A. Author1 and B. Author2, Title, Journal, Vol. X, No. X, pp. 1-10 (2008)

（2022年12月13日版）